



Mr.Bからの出題です Q.2

故郷の景色を探し当ててください！正解者には抽選でプレゼントを差し上げます。

この深浦の風景はどこ？

もはや三択！？QRコードからは
カラー写真が載ってます。



撮影日R8.08.04 Lv.★★★★☆

右の二次元コードから
お気軽に回答ください。



郵便の場合は、①住所②氏名③年齢④写真の答え⑤広報に対する感想などを書き添え、次の宛先までお送りください。

〒038-2324 深浦町大字深浦字苗代沢84-2

深浦町役場 総合戦略課

応募期限は、10月26日（月）必着

正解者の中から抽選で3名様に

「ゆうひくんタオル」をプレゼント！



みんなの回答お待ちしております(^^)

前号の答えは、「大間越地区福寿草付近から見た景色」でした！

当選者は発送をもってかえさせていただきます。

子ども英会話教室参加者募集！

遊びや体験活動を取り入れながら楽しく英会話を学べる教室です。東京の子どもたちとの交流や研修・夏合宿など、様々な活動も行っています。

対象：小学生
日時：毎週火曜日16～17時頃
場所：特別養護老人ホーム 桃の木
参加費：無料（飲み物・軽食をご用意しています）
問合せ先：84-1630（担当：長坂良輝）

公共施設敷地内



子どもを受動喫煙から守る！

全面禁煙

公共施設敷地内とは庁舎内（館内）、通路、駐車場並びに駐車中の車内及び歩道なども含みます。
なお、加熱式タバコ、電子タバコ等についても同様ですのでご注意ください。何卒ご理解とご協力をお願いします。

深浦町

☆パート社員募集☆

勤務場所：不老ふ死温泉
業務内容：客室の清掃および整備
勤務時間：8：30～13：30
賃金時給：1,100円～
募集人員：若干名

※詳細は、ハローワーク及び求人サイト・インディードでご覧いただけます。

株式会社秋田中央リース

〒016-0102秋田県能代市一本木41-1
TEL (0185) 58-5850(担当 藤田)

登録者募集！

あおもりマッチングシステム「AI(あい)であう」は、あおもり出会いサポートセンターが運営する結婚を前提とした出会いを希望する方のためのマッチングシステムです。深浦町では、町民の方の利用登録料の全額助成を行っており、登録を支援しています。
詳しくは役場総合戦略課までお問い合わせください。

※18歳未満の方はこのシステムを利用できません。

■問合せ先 総合戦略課 TEL74-2122

進め Forest 協力隊!! (隔月連載)

協力隊通信 vol. 8



深浦町地域おこし協力隊 櫻井 義晃（さくらい よしてる）（神奈川県湯河原町出身）

深浦町に移住して1年半が経ちました。今年も大間越御山参詣「白神山かけ」のご神事に参加させていただきました。今回で2回目の参加となりますが、白神岳のブナ林と木漏れ日が落ち葉を照らし、辺り一面琥珀色に見える世界が好きなので趣味で何度か登っています。5月の雪解けに合わせて登った時は、木の枝折れが多く驚き何故だろうと考えましたが、雪が多かった事もあり、「これが自然の摂理か」と受け入れるしか無いのかなと。自分では物理的に何もできないため、今回は自然に対し敬意と感謝を込めながら一步一步丁寧に登ることを意識し参加しました。いつもは下山した後、足が重く疲れるのですが、不思議と今回は足が軽く心にゆとりを持った状態で終えること

ができたことに、「なぜ」の気づきが得られました。

9月の白神山SEA TO SUMMIT 2026には、崩山ハイクの誘導係として大崩の見晴らしの良い場所で従事していました。そこで驚いたことは参加者の多くが素敵な笑顔（私にはそう見えました）で登って来ることです。私の場合は何かに追われるようにタイムを

意識し苦しい表情で無理して登るのですが、イベントの概要でも明記しているとおり環境スポーツイベントをよく理解している人達が多く参加していたのだと。今までの私は未来に意識を向け、マルチタスクやコスパ、タイパを追求してきましたが、今に意識を向け丁寧に生きる事ができている、心の豊かな人達に出会えて幸せでした。



白神岳山頂に立つ櫻井隊員



崩山頂上を確認する櫻井隊員

目の半分、深浦で～深浦町と木と林業通信～Vol.13 (隔月連載)

深浦町地域活性化起業人 高田 敦紀（たかだ あつき）（鶴田町出身、大阪市在住）
（深浦町林業振興プロジェクトマネージャー）

9月12日・13日に開催された「白神山フェスティバル2026」にて、木製テントやテーブル、ブランコなどを並べた「地域材活用展示エリア」を設けました。今回は、実際に木製什器を製作されている方にも深浦までお越しいただき、来場者の皆さんに木の空間を体験していただきました。「こんな使い方もできそう」「家にも欲しい」といった声もあり、木の使い方の広がりを実感する2日間になりました。

今回展示したものは、残念ながら深浦町外の木材を使ったものですが「深浦の眠れる森の価値を、形にする」というところで、住宅用材だけでなく、テントや家具、遊具、店舗や観光施設など、深浦の木が町の中で目に見える形で使われ、その背景にある森や地域の物語まで伝わっていく。そんな広がりを、これから少しずつ考えていきたいと思っています。

また、日常の生活面では、春から育ててきたバケツ稲がついに収穫を迎えました。苗を植えた頃から、暑い夏を越え、穂が垂れ、鎌を入れるまで約半年。大阪と深浦を行き来しているからこそ、季節ごとの変化がより鮮やかに感じられることもあると気付きます。深浦では、季節が移ることを景色だけでなく、食べものや地域の営みから感じる機会がたくさんあります。

森の木も、田んぼの稲も、育つには時間がかかります。だからこそ、その時間を大切にしながら、地域にある資源を次の価値へつなげていく。そんな「トータル林業」を、暮らしの実感とともに進めていきたいと思っています。



白神山フェスティバルでの展示の様子



バケツ稲を収穫する高田プロジェクトマネージャー